



ラウンジ QR コード

地域で活躍する外国人市民

123号ではタイのガモンラッド（モニ*）小峰さんを紹介します。

モニさんは、ラウンジ登録団体「タイ文化研究会」の講師です。交換留学生として来日。日本語はできなかったそうです。生活は学生寮で始まりました。熱が出て困った時のことです。3日も部屋から出てこないのを寮母さんが気づき、身振り手振りで薬を買ってもらえました。日曜日で病院は開いていない。このつらい経験が NPO 法人 AMDA 国際医療情報センターで、医療通訳相談に繋がっています。

*タイでは生まれた時に本名とニックネームを親がつけます。

Q1: タイと日本の違いをどのようなところに感じますか。

A1: 四季のある日本は季節ごとの自然の変化やその時々のおいしい食べ物を楽しまします。桜も年中咲いているものだと思っていました。四季のないタイでは、時間がゆったり流れます。人もゆったり、生活もゆったりしています。



ガモンラッド先生の授業風景

Q1: 泰国กับญี่ปุ่นมีความแตกต่างกันอย่างไรบ้าง?

A1: ประเทศไทยนั้น อากาศเหมือนกันตลอดปี ต่างกันกับญี่ปุ่น

ที่มีความเปลี่ยนแปลงของ4ฤดูกาลให้ได้รอย เคยคิดว่า

ดอกซากุระบานตลอดปี ฤดูกาลที่เปลี่ยน แสดงให้เห็นการเคลื่อนไหวของกาลเวลา ทั้งผู้คน และวิถีการใช้ชีวิตอย่างค่อยเป็นค่อยไป

Q2: 日本での暮らしはどうですか。

A2: 来たばかりの頃は日本人みんなが同じ顔、髪の色も同じ、服装も同じように見えました。他の国と国境でつながっているタイは、違う文化やことば、民族の交流があるので、みな違っていて普通です。それは、「社会のアート」だとも思います。

Q2: การใช้ชีวิตอยู่อาศัยในญี่ปุ่นเป็นอย่างไร?

A2: ในตอนที่มาถึงญี่ปุ่นครั้งแรกนั้น รู้สึกเป็นสิ่งใหม่เหลือเกิน ที่ดิฉันเห็นคนญี่ปุ่นทุกคน ช่างเหมือนกันไปเสียทั้งหมด ทั้งหน้าตา สีส้ม การแต่งกาย ดิฉันคุ้นเคยจากที่ไทย มีภูมิประเทศขอบเขตทางพื้นดินติดกับเพื่อนบ้านหลายประเทศ ทำให้เห็น "ศิลปะทางสังคม" การใช้ชีวิตรวมกันจากหลากหลายชาติพันธุ์เป็นเรื่องธรรมดาในประเทศไทย

Q3: タイ文化研究会での活動はどのようなものですか。

A3: ことばだけでなく、タイの生活や文化、タイ人の習慣や考え方、暮らし方を伝えています。ここでの出会いや人との繋がり、日本のことばで言う「縁」を大切にしています。

Q3: กลุ่มการศึกษาวัฒนธรรมไทย มีกิจกรรมอย่างไรบ้าง?

A3: ที่นี่ นอกเหนือจาก ภาษาไทย แล้ว เราได้เรียนรู้วิถีการใช้ชีวิตและวัฒนธรรมไทย มุมมอง บุคลิก กิจวัตรความเป็นอยู่อย่างไทย ที่นี่เป็นจุดตั้ง ที่ंनाพาทุกคนได้เข้ามาพบเจอกัน เป็นดังในภาษาญี่ปุ่นคำว่า

"บุพเพสันนิวาส" ดิฉันให้ความสำคัญของขณะ และผู้คนทีพบเจอในชีวิต เพราะทุกสิ่งในชีวิตไม่ใช่เรื่องบังเอิญ

横浜市青葉国際交流ラウンジは、横浜市の委託を受けて NPO 法人横浜青葉国際交流の会が運営しています。

ラウンジでは、本を借りることができます (一人2冊2週間)。どんな本があるか、ラウンジに来てください。

みなさん、ラウンジにはたくさんの本があなたをまっています。本の中で知らない人や世界のことを知ることができます。

東南アジアでは、こんなことがあるそうです。いつてみたいですね？



タイのお百姓さん
ユーンブン (著) 蝸牛社 (発行)
タイのお百姓さんは雨がたくさん降ると稲の苗を植えます。「黄金の大地」と言われる田んぼを水牛がたがやします。冬になると稲を刈ってお米にします。暖かいタイではお隣どうし仲よく、のんびり、ゆったりと生活をするタイのお百姓さんです。(こ)



暮らしの図鑑 タイの毎日
ぶくこ (著) 翔泳社 (発行)
とにかく情報量がハンパじゃない!写真や文章からは土地の空気や香りまで伝わってきます。タイに6年間暮らした作者の「トムヤムクンや象さんだけがタイじゃない」の思いを、どのページからも楽しめること請け合。タイ推しの方も、タイが気になるアナタも、「マイペンライ精神」を体験したくなるはず! (さ)
マイペンライ精神: 2 ページの*をみてください。

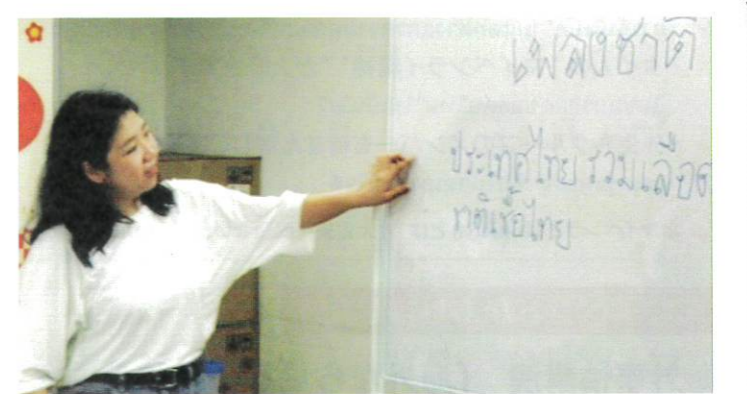


変容するインドネシア 小川忠 (著) めこん (発行)
日本には約8万人が暮らし、本国での平均年齢は29歳。中等教育レベルでは世界最大の日本語学習者70万人。2050年にはGDPが中国、インド、米国に次ぐ4位に。
300を越すエスニック集団を持つ「多様性と変化の国」です。日本が対等なパートナーシップを結ぶには、まず市民・青少年交流が大切と説く筆者による昔と今、そして将来のインドネシアを知るには最適の本。(お)

地域で活躍する外国人市民

123号ではタイのガモンラッド (モニ*) 小峰さんを紹介します。
モニさんは、ラウンジ登録団体「タイ文化研究会」の講師です。交換留学生として来日。日本語はできなかったそうです。生活は学生寮で始まりました。熱が出て困った時のこと。3日も部屋から出てこないのを寮母さんが気づき、身振り手振りで薬を買ってもらえました。日曜日で病院は開いていない。このつらい経験がNPO法人AMDA国際医療情報センターで、医療通訳相談に繋がっています。
*タイでは生まれた時に本名とニックネームを親がつけます。

Q1: タイと日本の違いをどのようなところに感じますか。
A1: 四季のある日本は季節ごとの自然の変化やその時々のおいしい食べ物を楽しまます。桜も年中咲いているものだと思っていました。四季のないタイでは、時間がゆったり流れます。人もゆったり、生活もゆったりしています。



ガモンラッド先生の授業風景

Q1: 泰国กับญี่ปุ่นมีความแตกต่างกันอย่างไรบ้าง?
A1: ประเทศไทยนั้น อากาศเหมือนกันตลอดปี ต่างกับญี่ปุ่น
ที่มีความเปลี่ยนแปลงของ4ฤดูกาลให้ได้รอย เคยดีกว่า ดอกซากุระบานตลอดปี ฤดูกาลที่เปลี่ยน แสดงให้เห็นการเคลื่อนไหวของกาลเวลา ทั้งผู้คน และวิถีการใช้ชีวิตอย่างค่อยเป็นค่อยไป
Q2: 日本での暮らしはどうですか。
A2: 来たばかりの頃は日本人みんなが同じ顔、髪の色も同じ、服装も同じように見えました。他の国と国境でつながっているタイは、違う文化やことば、民族の交流があるので、みな違って普通です。それは、「社会のアー」だとも思います。

Q2: การใช้ชีวิตอยู่อาศัยในญี่ปุ่นเป็นอย่างไร?
A2: ในตอนที่มาถึงญี่ปุ่นครั้งแรกนั้น รู้สึกเป็นสิ่งใหม่เหลือเกิน ที่ได้เห็นคนญี่ปุ่นทุกคน ช่างเหมือนกันไปเสียทั้งหมด ทั้งหน้าตา สันนิษฐาน การแต่งกาย ดินแดนที่เคยจากที่ไทย มีภูมิประเทศขอบเขตทางพินดินติดกับเพื่อนบ้านหลายประเทศ ทำให้เห็น "ศิลปะทางสังคม" การใช้ชีวิตรวมกันจากหลากหลายชาติพันธุ์เป็นเรื่องธรรมดาในประเทศไทย
Q3: タイ文化研究会での活動はどのようなものですか。
A3: ことばだけでなく、タイの生活や文化、タイ人の習慣や考え方、暮らし方を伝えています。ここでの出会いや人との繋がり、日本のことばで言う「縁」を大切にしています。

Q3: กลุ่มการศึกษาวัฒนธรรมไทย มีกิจกรรมอย่างไรบ้าง?
A3: ที่นี้ นอกเหนือจาก ภาษาไทย แล้ว เราได้เรียนรู้วิถีการใช้ชีวิตและวัฒนธรรมไทย มุมมอง บุคลิก กิจวัตรความเป็นอยู่อย่างไทย ที่นี้เป็นจุดตั้ง ที่นำพาทุกคนได้เข้ามาพบเจอกัน เป็นดังในภาษาญี่ปุ่นคำว่า "บุพเพสันนิวาส" ดึงดูดให้ความสำคัญของขณะ และผู้คนทีพบเจอในชีวิต ไม่ใช่เรื่องบังเอิญ

日本語をならいたい人!

●おとなのための教室 (高校生以上)
日本語教室 会費: 300円/月 (どのクラスも)
水曜日クラス 午前9時30分~11時
木曜日クラス 午後6時30分~8時
土曜日クラス 午前9時30分~11時

●子ども学習補習教室 (無料)
(外国につながる子どものためのクラス)
水曜日 (小学校入学1年前~小学6年生)
午後4時~5時30分
(中学生) 午後5時45分~7時15分



※日本語教室に入りたい人は、今は入れるかどうかをラウンジのホームページか、窓口で確認してください。

●学習者のニーズや要望に沿った日本語学習だけでなく日本の文化や習慣など生活情報も伝えます。
●外国につながる子どもたちの日本語学習です。それぞれの学習支援、学校の宿題のサポートをします。

2024年7月13日 横浜市防災センターに子ども教室の子どもたちが「防災体験」「防災訓練」をしてきました。消防士のユニフォームを着たり、こんな消防車にも乗りました。



ようこそ! -Welcome-
横浜市民防災センター
来場記念

123号ではタイをとりあげました。今、どこでも外国人と出会います。先日新幹線で若いインドのエンジニアが隣にすわりました。日本に来て2日目。2年の滞在先として、英国より日本を選んだそうです。どんな体験をして、2年後インドに帰るのでしょうか。ひとつでも多くの素晴らしい出会いがありますように。

Q4: これからの活動の展望を聞かせてください。

A4:AMDA 国際医療情報センターの活動を通じて、タイ語や英語での医療通訳の役に立ちたいです。これは来日したばかりの頃に体調をくずして、言葉の壁で苦しんだ自分の経験があるからです。日本に長く暮らすタイのお年寄りには、日本語で生活していたのに、病院では、もうタイ語でしか話せないのです。「ことばは文化」です。日本の生活に、慣れないタイ人の子育てを助けたい。幼稚園や小学校のおたよりの、「ことばのボランティア」をしてみたいです。いつかタイに帰国することがあれば、タイの子どもたちに日本語や日本文化を伝える教室のようなものを作りたいと思っています。



Q4:ช่วยบอกเล่าถึง กิจกรรม เรื่องราว สิ่งที่ตั้งหวังไว้ หลังจากนี้

A4:ได้ใช้ความรู้ทางภาษาไทยและอังกฤษ ให้เป็นประโยชน์ในการเป็นล่ามทางการแพทย์ที่ ศูนย์ข้อมูลทางการแพทย์สำหรับชาวต่างชาติAMDA เคยมีประสบการณ์กับตัวเอง ตอนมาอยู่ญี่ปุ่นใหม่ๆ ไม่สบาย แล้วพบปัญหาที่สื่อสารกับคุณหมอไม่ได้ ชาวต่างชาติที่แม่ใช้อาศัยในญี่ปุ่นมานาน แต่พอร่างกายเจ็บป่วย ผู้ป่วยจะพูดได้แต่ภาษาไทย "ภาษาเป็นส่วนหนึ่งของวัฒนธรรม" ในโรงเรียนอนุบาลและประถม ที่ผู้ปกครองชาวต่างชาติ ยังไม่คุ้นกับจดหมายรายวันของลูกแบบญี่ปุ่น หากมีโอกาสช่วยเป็น "อาสาสมัครทางภาษา" ในอนาคตวันหนึ่งที่ได้กลับไปอยู่ไทย อาจจะเปิดบ้านเป็นสถานที่เล็กๆ ในการสอนภาษาและเผยแพร่วัฒนธรรมญี่ปุ่นให้กับเด็กไทย

- ・好きなタイの言葉や文化を楽しむ時間です
- ・ในกลุ่มนี้ฉันกำลังเพลิดเพลินกับภาษาและวัฒนธรรมไทยที่ฉันชอบ
- ・タイと日本の違いや共通点を発見するのが楽しいです
- ・การค้นพบความแตกต่างและความคล้ายคลึงระหว่างไทยกับญี่ปุ่น
- ・タイ人の "マイベンライ精神" * が大好きです
- ・ฉันชอบวิธีคิดของคนไทย "ไม่เป็นไร"
- ・先生もグループのメンバーも皆さん優しいです
- ・คุณครูและสมาชิกในกลุ่มทุกคนใจดี



タイ文化研究会 メンバー

*マイベンライ(ไม่เป็นไร)とは「大丈夫、問題ない、どういたしまして」など、幅広い意味で使われる、タイのおおらかな国民性を象徴する言葉

こんなイベントがありました!

海外事情講演 「海外から見る図書館の未来：日本の図書館の課題解決支援サービス」を目指して

日時：2024年7月21日(日曜日)
講師：加藤好郎 「図書館文化論」著者
社会教育の中心のひとつとして「図書館」が存在します。しかし、日本では図書館とは「本」があるところ、借りるところ、と多くの人たちが認識しています。今回、アメリカ、イギリスを中心として、特に公共図書館サービスの現状を紹介することで、日本の「図書館」、「利用者」両方が、今後の図書館サービスへの「希望」を持っていただければ幸いです。
最寄りの図書館とは、多くのモノを知り解決できる、教育(今日行く)、教養(今日用がある)の場所です。



第79回アフタヌーンティー 『タンザニア～文化&観光セミナー』

日時：2024年9月15日(日曜日)午後1時半～3時
講師：タンザニア大使館より来ていただきました。
白井一真さん(上席行政官)とホセア・M・チコロongoさん(政治・文化担当官)
タンザニアと言えば雪を頂いたキリマンジャロ山(5895m)。頂上からは天の川や満天の星が美しく見えるとのこと。
「果てしない草原」を意味するセレンゲティ国立公園では地平線が見え、300万頭近いヌーが草を求めて大移動するそうです。「世界の動物園」ンゴロンゴ口自然保護区や先住民マサイ族の文化もあります。
公用語はスワヒリ語と英語です。サファリはスワヒリ語で「旅」という意味です。タンザニアは遠いように思いますが、東京～ニューヨークくらいの距離です。年齢中央値が17.9歳という大変若い国です。



35th anniversary 35周年 青葉国際交流ラウンジ 歴史と活動

1989 藤が丘地区センター開設 青葉区近隣の多くの外国人支援団体が協力し、緑国際交流ラウンジとして、藤が丘地区センター開設と同時にスタート。横浜市で一番目の国際交流ラウンジが誕生しました。

1996 青葉区区役所別館移転 青葉区制定により名称変更 青葉国際交流ラウンジとなりました。

2005 青葉区区民交流センターへ移転

2013 市民団体から非営利活動法人 NPO 青葉国際交流の会 となり活動を継続

2024 現在 会員総数 339名 多文化共生の社会を外国人とともに作ることを目的に 国際交流ラウンジとして活動。横浜市には現在 13館 国際交流ラウンジが設置されています。

11月23日(10時～12時)は! 青葉区区民交流センターまつり + 青葉国際交流ラウンジ 35周年記念事業

10:15～11:45 外国人と話してみよう!

10:00～12:00 缶バッジを作ろう! 子どもたちの作品みてね!

写真で見よう! ラウンジ35年いろいろあった!

ベトナム、インド、ネパール、ロシア、トリニダード・トバゴ、中国

「外国につながる中学生のための高校進学相談会」開催しました!! 情報を地域にひろげてください。

日本の高校進学について分からないことを聞いてみました! 次回には、ぜひ参加してください。

日時：2024年7月20日(土曜日)午後1時～2時30分
講師：高橋清樹先生
認定NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ
中学生4名、保護者9名(フィリピン、ネパール、中国 他)
学習支援者8名(青葉ラウンジの子ども学習補習教室、サロン・デ・チャルラス、日本語支援拠点施設「都筑ひまわり」から)
英語ボランティア2名も協力

「次々時には、たくさんのお父さんやお母さんの参加をお待ちしています。」

「日本の高校に行きたい!」
「お金のことが知りたい!」
「どこに相談したらいいの?」

参考：横浜市国際交流協会
外国につながる子ども支援